



平成28年12月14日（水）午後2時～3時
生涯学習センター小会議室にて

《参加者》

北上市男女共同参画サポーターの会（11名）
北上市長 高橋敏彦、まちづくり部長 佐藤秀城

《テーマ》

北上の男女共同参画の推進、これからどうする？
サポーターは、あじさい都市を目指す北上で、どんな役割りを担っていけばいいのか？



市長：男女共同参画と言われるようになってから何十年、大変長い時間が過ぎたように感じますが、実際には、なかなか目に見えるように前に進んでいるわけではありません。

例えば、北上市の幹部人事では、私が6年前に市長になった時点で、部長級職員 18名のうち、女性は1名でした。今は、2名に増えていますが、課長級の女性職員が少ない状況もあり、継続的な登用が難しいと感じています。

また、今年は農業委員会法の大幅な見直しがあり、19人に減ることになりました。そのうち、最低でも1/3にあたる6名を女性にしたいと、様々な団体・地域に女性委員の推薦をお願いしました。どこの組織も、人選に苦労したようですが、協力いただいて、何とか目標の人数に達することができました。これから、農業委員として、おおいに発言していただきたいと思っています。他にも様々な審議会委員等がありますが、ほぼ同じ顔ぶれという状況が続いています。もう少し次々と出てくるような雰囲気になればいいなと思います。

皆さんが県の事業に参加されて、サポーターの会を作られ、活動されてきた中で、これまでの全体の動きなどにおいて気になることがあれば、意見を出していただき、互いに連携できる仕組みづくりなど、相乗効果が出る会になればよいと思います。



男女共同参画サポーターの会について

八重樫さん：男女共同参画サポーターの会は、岩手県が主催する「男女共同参画サポーター養成講座」を受講した45名ほどの市民からなる会です。ただ、実際には、今日集まった10名前後のメンバーを中心に活動しています。以前は岩手県のサポーターの会にも登録していましたが、今は、北上市単独で活動しています。

現在も県で養成講座を続けていますが、受講者、特に若い男性が少なくなっています。私が平成13年に受講したときも、男性は一握りでした。



▲平成27年度に開催されたフォーラムでの寸劇の様子

男女共同参画サポーター養成講座とは、男女共同参画に興味・関心があり、その推進活動に意欲のある方を、岩手県で「男女共同参画サポーター」として養成し、県及び各地域における男女共同参画の意識の向上と活動の促進を図るものです。講座内では「男女共同参画とは？」「地域における女性活躍」「ワークライフバランス」「ひとり親の支援」「LGBTや性別の違和感の視点」等、様々なテーマから男女共同参画を学びます。（岩手県男女共同参画センターHPより）

北上市男女共同参画サポーターの会では、北上市の男女共同参画の意識啓発のため、男女共同参画をテーマにしたフォーラムの開催や、寸劇の上演、イベントへの出展などを行っています。

後藤さん：（タウンミーティング申込みに至る経緯）今年度、岩手県の男女共同参画センターと協働事業を行うことになり、どんな取り組みをしたらよいか、話し合いました。

その中で、これからサポーターが市で活動を行っていくため、北上市がどう状況にあって、また今後どんなスタンスで進めることにしているかを知りたいということになりました。今日は、これから北上市において男女共同参画を進めるうえで、どのような視点があった方がいいのか、共有できたらと思います。

今日参加の会員の皆さんも、それぞれの思いや、市への質問などがあれば話してください。

高橋ヨシノさん：私は豎川目に住んでいますが、空き家が年々増えています。一方で、都会から、自然を求めてやってくる人もいます。定年で60歳を過ぎた人でも、80歳まで元気でいられるとすれば、20年は田舎生活できる。そういう縁で来た人をサポートするのもサポーターではないかと思えます。

平野さん：サポーターが、何をどこまでサポートするのか、それすらはっきりしていません。基本方針では「市が支援します」とされているけれども、何を支援されているかよくわかりません。市から要請されたことに対して、寸劇やフォーラムなどの取り組みを行ってききましたが、それも頭打ちのような感があり、サポーターとして何をしたらいいか、市からの意見が欲しいです。

高橋晴子さん：地域でも「サポーターの会って何？」と言われる。「男女共同参画サポーター」という言葉ですら、あまり知られていません。広報には何度か載りましたが、もう少し「サポーターの会とはこんなものですよ」とPRしてほしいです。

後藤さん：今までの活動があまり認知されていないという気持ちでいて、これからどうしていったらいいか、悩んでいます。市での、男女共同参画についての取り組みや、今後、どういった形で取り組んでいくかという方針を伺いたいです。

まちづくり部長：国では、男性も女性も同じ立場で仕事を進めていかなければならない、そうでなければこれからの社会は難しいだろうという考え方をもとに進めています。北上市でも、男女共同参画プランを作成し、実施しています。女性に、様々な場にどんどん来ていただくことと取り組んでいますが、まだ、地域で「男女共同参画」の認知度は低いです。

皆さんがサポーターの講習を受けた時の気持ち・疑問・違和感を、地域で同じように感じている方々はたくさんいると思いますので、地域で皆さんの仲間を増やし、声を集めて、大きくしてほしいと思います。市では、その声を受け取れるよう役所の仕組みを変えていきたいと思っていますし、地域づくり組織との連携も、進めていきたいと思っています。



畠山さん：今年、講演会をやるにあたり、人を呼ぶためには、市から押していただくのが絶大なコマーシャルになるだろうと考えました。今日は市長に、広報や、地域に行ってお話をなさる時に「男女共同参画」というワードを入れてもらいたい、とお願いしたいというのが本音です。

市からは啓蒙活動を頑張ってくださいと言われますが、いざ講演会をしても、動員をかけた人しか来ませんので、どうやって全市に広め、本当に困っている人の声を拾うことができるか、悩んでいます。私たちは何の身分保障もなく、市から委任されているわけでもありません。例えば、交流センターに「私たちこういうものですが、こういう活動をしていいですか」というと「いりません」と言われます。そこを、今年は何とか1歩前へ進めたいと思っています。

市長：基本的に、「計画」に載っていないと、動けないのが「市」「行政」という組織。そもそも、男女共同参画サポーターの会、あるいはサポーターの位置づけがどうなっているの、ということを知りたかったら、行政は動きません。この場で何かしようと話し合っても、それを計画に反映させないといけません。今は、事業実施の段階で「一緒にやりましょう」と言って行動している状況ですが、もう1歩進めて、事業の計画づくりの段階から「こういうことをしたいから、計画に載せてほしい」「その成果として、何を何人増やしましょう」という提案をいただきたいと思っています。



平野さん：計画の審議会のメンバーに、サポーターも入っています。その人が私たちの声を届けてくれるといいですよ。これまで人任せのようにしてしまっていたので、反省しなくてはなりません。

市長：それが一番いいです。今審議会に来ている人は、別の枠からの代表者の場合もありますので、会を代表する形で委員になってもらえるようにしなくてはなりません。

まちづくり部長：今は、サポーターを養成していきましょう、という事業のみで、サポーターの数というのが指標になっています。その後どのように活用していくか、サポーターがどのような活動をしていくかというところまでは載っていません。

高橋祐子さん：事業所においては、男女雇用機会均等法、パワハラ、セクハラに大変敏感な状況です。職場で、セミナーに行った、というようなことを話せば、内容はよくわからなくても「どんなことをしてきたの？」など聞いてくれたり、応援してくれたりします。つまり、関心はあるということだと思います。制度などについて聞いてくれる人が増えたり、少しのびのび働いてもいいんだ、と気づいてくれた人が増えたりしたことだけでも、勉強して良かったなと思います。

後藤さん：私自身がまさに今子育て世代だからこそ思うことですが、男性の参加率が低い側面は、自身が置かれている働く環境というのがまず大きいのかなと思っています。

自分の組織内の業務改善とか、経営改善とかを言っても、「昔からそうだったから」とか「女性だから」とか言われてしまう。また、男性が子育てしていると、「なんで男が子育てするんだ」という声が、まだまだ多いようです。そういった状況は、多様な世代にサポーターを増やしていくことで改善の近道になるのではないかなと思っています。北上市のこれからの男女共同をどう進めていくかということを考えた時に、今、この問題に関心のある方たちに対して、どのようにアプローチして、こちら側に引き込むかというのが一つの視点になるのではないかなと思います。

薄衣さん：若い男性にももう少し理解を進められる方法をみんな考えないと進まないと思います。現状は平成12年からそんなに変わっていません。勉強した人が大勢いるので、今できる範囲で考えられることをやってみて、その後、計画に載せていただけるような方向にもっていかないとはいけません。(ア)

畠山さん：市長としては、どのように進めたいですか。

市長：何年か前に、男女共同参画推進の評価委員をしていました。計画や事業をきちんと書面にして、こういう状態になればいいねという目標を数値化して、それを達成することによって段階を上げていく、というやり方をしてきました。その回ごとに「ああしたいね、こうしたいね」と話し合うだけでは前に進みません。

今は、評価委員会ではなく、推進委員会で当年度評価と翌年度計画を一緒に進める形を取っていますが、今聞いたように、その場に参加した代表者が、団体へフィードバックできず、空回りしているような状況があるかもしれません。

(薄衣さん) なかなか認められていないな、活動の場がないなということを経験してきましたが、社会的に「男女共同参画」という言葉そのものは認められてつつあり、そう意識を持っている人も大勢増えてきています。地道に活動しながら、その場を広げていかなければなりません。サポーターが40人ほどいるので、市長のいう16地区単位で活動できる場を具体的につなげていただければ、出ていきやすい。ところが、自分たちで何をやるかも、年に1度会うか合わないかのメンバーで話し合うのは、非常に難しい環境・状況に立たされているというのが現状です。

高橋晴子さん：40人のサポーターは、きっとそれぞれ何かしら思いがあって受講したのだと思いますが、1年に4・5回ある集まりに来るのはここにいるメンバーのみ。このままでは前に進まないと思っています。

市長：情報交換するのはいいけれど、そこから、何か意思決定をして、「何をどう変えたいのか」をきちんと起こさないと、成果が見えません。成果が見えないと、「何を言ってもしょうがない」と感じてしまいます。皆さんの意思が共有されれば、推進会議に代表で出る方も、意見が言いやすくなります。そうやって少しずつ変えていけばいいと思います。さらに、それをサポーターそれぞれが所属している地域に浸透させていけば良いと思います。我々が今具体的に困っているのは、市政座談会に女性が出てこないことです。発言をして何かを変えるチャンスのひとつが市政座談会です。政策を作る過程にぜひ意見を出してもらえればと思います。



高橋由紀子さん：私は、女性議員を応援したいという気持ちがございます。こういう会から、「自分たちはこういうことが困っている」という女性としての意見を発信すれば、色々なことが変わってきます。議員が議会で発言すれば、担当部長や市長が答えてくれます。色々なことを変えるなら、後押しする人間がたくさんいなくてはなりません。みんなで話し合えば、議員さんは地域の代表のようなこともしているので、その面から変わっていくこともあると思います。そういうことを、この会で出来るのではないのでしょうか。

八重樫さん：国会で、クォーター制を提起している議員もいます。国会でも賛否両論のようですが、北上でも男女共同参画プランを実現するための後押しとして、条例化をしなくてはいけないのではないかと考えています。議会の役割、市の役割、様々な方の立場を明確にして盛り込んでいく必要があると思います。岩手県や、他の自治体でも条例化していますが、北上にはまだないのが残念だなと思っています。

クォーター制とは

政治における男女平等を実現するために、議員・閣僚などの一定数を女性に割り当てる制度。

平野さん：結局、私たちにできることは何、という感覚を持っています。市長はサポーターにどんなことを求めますか。

市長：色々手を広げるよりは、まず「こういうことを何とかしたい」ということを合意形成して、一つ二つでもいいから決めてほしいと思います。決めたら、同じことを各地区で発言したり、代表者の方にも発言したりしてもらおう。「今年はこれをゲットしましょう」というのを決めてほしいです。

後藤さん：市長の言う通り、方向性が定まっていないので、それを決めていくことが大切だと思います。まず、今年度は3月に講演会をやることにしているので、その場でどんなことをやりたいか、考えていくのが良いのではないのでしょうか。

平野さん：市の主催する会議の時に、寸劇を披露したことがあります。寸劇が始まると、席を立ってしまう人が多数ありました。何のためにやっているのか、むなしくなってしまう。

市長：もっとポイントを絞って、「これを伝えたい・変えたい」というところをもって行るのが良いのかもかもしれません。

畠山さん：こういうやる気のある方たちのためにも、市長に全面的にバックアップしていただきたいです。

市長：バックアップはさせていただきたいと思えますし、年に1枚ペーパーを残すだけで随分変わるのではないのでしょうか。

高橋ヨシノさん：広報の「コーヒーブレイク」に載せてもらえませんか。字も大きくて見やすいので。

畠山さん：3月に行う講演会の宣伝もぜひお願いします。

市長：そういう空気を作っていかななくてはいけないと思います。男女共同参画の計画と、評価の仕組みは出来ているので、それをひとつひとつ実行し、活かしていかないとけません。行政の担当者だけで、この評価の数値が良いか悪いかを考えているように思います。そこから変えていかないと、実質的な変化はありません。

まちづくり部長：男女共同参画については、まちづくり部が主体となっていますが、具体的にそれを推し進める施策がなかなかありません。例えば、ワークライフバランスについては、企業に関することを所管している商工部に話をして…と、間接的なお願いになります。また、各種委員等への女性の登用についても、各部署にお願いはしますが、色々条件があるなど、まだ壁があります。ただし、様々な機会に呼びかけないと前には進まないの、これからも行っていきます。もし、皆さんが具体的にやってみたいことがあれば、計画の中にきちんと入れ、予算を確保してバックアップすることは可能になると思います。

市長：ぜひ「政策づくりの場に出ようよ」と数人誘い合っていていただき、声を出してほしい。市政座談会に女性が数人出ているような地区だと、必ず女性の視点からの発言をしてくれます。それが無いと、事実上変わりません。

畠山さん：男女共同参画というのは「人の生き方」だそうなので、全部が関わることです。花巻市はスピードアップして進めています。北上市は、サポーターを増やす、とプランにありますが、本気なら、それをもっと前面に出して取り組みれば、もっと住みよい、あじさい都市により近づくのではないのでしょうか。

市長：基本的な話ですが、主体は市民です。「こうりたい」というのを市はバックアップする。まずは「こうしたい・こうりたい」というのが必要です。

畠山さん：そう思って、今年度の講演会を企画しました。それで市長にPRしてもらおうと思っています。今日はそのよい返事も聞いて良かったです。

高橋由紀子さん：ぜひ議会にもっと関心を持ちましょう。

市長：今年は女性模擬議会もあるので、ぜひ傍聴ください。

後藤さん：今後、若い男性など、様々な世代・属性の方を巻き込んだ活動につながれば良いと思います。

平野さん：サポーターには市職員も大勢いますが、こういう会ではあまり見かけたことがありません。

市長：市職員は原則として数年で異動してしまうので、広く浅くという知識経験しかつきません。そういう意味では、NPOや市民活動団体など、同じテーマで活動を続けている人・団体の方がノウハウがありますので、そちらとの連携を考えてみても良いと思います。

タウンミーティング実施団体募集中!

お問い合わせは北上市広聴広報課 (0197-72-8229) へ

